磐城日日

發行所
磐城日日新聞社
福島縣小名浜町洛廻51
電話代表387番
振替仙台31.355番
編輯兼發行人 長瀬芳郎

百年の大計樹立は今
要は鹿島村の決断
青婦を中心に濱と懇談

市制施行の前夜にある躍進小名浜がその都市計画の一環として計上する隣接鹿島村への合併申込みは、去る六月公民館における双方議員の懇談會をもつて実質的な動きの第一歩を踏み出したが、それから二ヶ月――鹿島村民の合併問題に対する意慾と小名浜認識は確かに数歩前進して小名浜への關心は急速に上昇線を辿つている、即ち小名浜市制準備委員会では二十日午後二時から鹿島村小學校で、ぢかに村民を対照とする懇談会を開いたが八代村長以下三島助役、各区長、男女青年團員、婦人會員、學校側から金成校長なども出席して総勢五十余名、小名浜當局は資料町財政白書を提供して台所まる見せの誠意を披歴「得心のゆくまでトクと小名浜を検討しておくんなんしよ」と赤裸々に素顔をさらけ出した以下はその懇談内容の全貌である――

定例八代村長先ず小名浜市制準備委員會の要請で本日村民諸賢の集いを願つたわけだが十二分に小名浜当局者に質問、或いは説明願つて小名浜検討の機会を活かして貰いたいと出席村民に挨拶

濱の台所を提示
市制施行の利を説く

ついで小名浜市制委を代表して西丸委員長酷暑の中を多数出席願つて感謝に堪えない、合併問題討議に先立ち合併に對する私の所見の一端を申述べると、先ず合併問題の主眼は合併により両者が幸せとなることが第一條件であらねばならない、それがためには合併により治水道路等の産業諸施設、隔離病舎、公民館等の衛生文化諸施設など當然必要で、合併による市制施行は斯うした諸施設の早急実現に大きい役割を果たすことを私は確信するどうか本日は合併に對する忌憚ない意見や質問を遠慮なく續けて貰いたい

と挨拶の言葉を述べ、ついで小名浜町遠藤庶務課長により町財政の大要が小名浜認識の一資料として説明された

▲小名浜健全財政は二十七年度予算において歳入町税面に約三百萬の減税を断行した

▼一年一人当りの税額は水素等の有力会社が存在するため千二百円に過ぎぬ

▼歳出の主眼は教育、社会及び農村諸施設費に重点を置き最大の予算額が計上されている

▼港湾費に對する起債高は二千九百万を算しているが、これが負擔は僅かに四十一%に過ぎず、他の五十九%は漁業その他主要会社による、いわゆる受益者の負擔となつている

など港湾施設費、税金面等に関して合併後に於ける村民の過重負擔予想への疑念を一掃し、更らに立花委員過去八年の港湾委員の体験を生かして鹿島側關心の焦点と見られる港湾問題を次のごとく説明

國家的の重要港
負担はかけぬ港灣整備

立花委員 一昨々年港湾法の設定により小名濱港は全國四十七港中の重要港湾に指定され、國庫補助による港湾諸施設強化の道も展けている、今後の計畫として沖防三〇〇米の延長、三千屯岩壁の暗礁の除去、防波堤八〇米の延長等が港湾整備に拍車をかける更らに二十七年度予算に三千二百万円が計上され、内防完成により一先ず漁港としての設備は完備され、是によつて百七十隻の漁船收容が可能となり、廻船吸收にも大きく一役斯うした廻船吸收の増大による利益や小名浜在住漁業家等の受益者積立貯金等で町負担港湾費の四十一%は更に低率化されることは明かであり、又大竹知事も縣唯一の商港であるばかりでなく東京鹽釜間約三百哩中唯一の商港である特殊性を活かし、縣發展の重要起点としての商港開發には縣獨自の事業として乗り出したいと熱意のほどを言明している、かくて次年度からは着々商港完備への準備が成され、それに伴う運河の設置も企劃されかつて小名浜、玉川合併当時分村問題で話題を投じた富岡など野菜の港外販圖に洋々たる途が展け今日大いに満足している現状である

ついで工場誘致委員として同方面の説明も兼ねて

小野（務）委員 われ／＼は單に生存するというだけでなく常に生活に理想を持たなくてはならない、建設生活の理想は当然文化面の福祉につながる、鹿島と小名濱の政治的縁故はすでに明治十六年戸長役場の設立当時に發動している、それから數十年、歴史は繰り返し地方自治法の精神は今日再び鹿島村を都市行政區域の中に登場させている、發展的合併は村の消滅を意味するものでなく、むしろ市制という大きい枠の中で文化面の諸恩澤經濟面の諸福利を享受しつつ獨自の農村形態が維持出來る、自分は市制施行により皆さんと共に一日も早く斯うした福祉を共にすることを望んでいる、又工場誘致の經過は危ぶく北海道に設置される運びであつた日本水素の強引な小名浜誘致の成功から今日の利益が生じ、更に日本専賣公社の製鹽工場も、客觀的諸條件の優位性も手傳つてその誘致に成功して今日すでに完成し操業を開始日産五十屯の成果を擧げ、更に五倍の生産能力を發揮出來る準備も可能である モデル工場として全國からの視察も絶えず、直接間接に小名浜に及ぼす余澤は大きい、更にビニロン工場も電力事情石炭事情その他すぐれた立地條件から斷然縣下一の有力候補となつている、資金面の隘路が打開され次第全國屈指の電力縣として当縣設置は既定の方針であり、当縣設置の確定を見る暁は前述の事情で先ず小名濱設置は約束されたようなもので全工場の設置による小名浜の福利は甚大である、斯う見てくると町財政の三分の二という過半數を将來とれる等工場の負擔により賄れるという大きい期待が懸けられている

農村形態は不變
合併は自治法の精神

以上の如く当局理事者による小名浜町の現況並びに今後の企劃等に對する概括説明があつたのち質疑應答に入り、鹿島側質問のトップは青年團佐藤副團長により單刀直入

佐藤副団長 合併の根本精神は何處にあるか

となつて第一問が放たれた是に對し小名浜側

西丸委員長 地方自治法の精神を推進していく、又合併のためには双方の十分な意見開陳により疑念を解消し両者の能動的希望に俟ちたい

箱崎行雄氏 今の解答で小名濱の合併に對する根本理念は判つたが、湯本からも申込みになつている、小名浜が鹿島に申込んだ理由如何

立花委員 泉の全部、江名、鹿島は大小名濱建設の都市計画の中に包含されている 市制施行により起債額の増大が期されこれによつて各事業の遂行が圓滑化される又諸施設の完備により両者の生活がより高度に確立されることは自明の理である、現在小名浜の財産は十五億六千万円、湯本はこの三分の一に過ぎぬ、併し合併の希望は一方的ではいけない、小名浜は鹿島側があらゆる点から小名浜並びに小名浜の将來を檢討して眞の理解のもとに自發的な合併希望を理想としているもので、さうした線で湯本と検討比較して湯本合併を鹿島自体が百年の計樹立によしとするならば、而してそれが眞實性をもつているならばわれ／＼は鹿島が湯本と合併することに双手を擧げて賛成する

箱崎行雄氏 小名濱は何故泉と合併しないか

西丸委員長 勿論早晩泉村とも合併の時期が到来するものと確信している泉村の前現村長共にこの問題には理解があり地理的に言つても現に泉村の小名濱隣接地區の一部は小名浜に依存する經濟圏で生活している現況である

危ぐの念は無用
奮玉川の現況で明瞭

佐藤副團長 合併されることと自体直ちに村民の幸福とはならぬ、内容が充実すれば村としての現状のまゝでも生活向上がある

小野（務）委員 その考えは余りにも小見病的で且つ近眼的というべきであらう 文化の享受が、或いは生活上の諸利益が、單一農村と市制の中にある農村と何れが大であるか、あらゆる先進合併都市が現實に證明し、また「内容が充實すれば」のその内容充実が合併と否とでどちらが早いか論議の余地ない位ハッキリしていると思う、市制確立により財政の轉機が與えられ起債額の増大により文化その他の諸施設が急速に充実し、各自の生活の理想が一歩前進することは明かで、例えば泉村の場合、村でよいのを何故町制を施行するかの一事を見ても判ると思う

更らに現實の生きた證左を例示した

菅原委員 福島市の場合も適例の一つである、第一次合併で飛躍的好結果を現實にみた近接農村が相次いで現在福島市に合併を申込んでいる事實を見ても都市合併の是非は明瞭である

と小名浜陣交々都市合併による利便と生活の向上を力説すれば

箱崎行雄氏 市制施行により起債額の増大を計るということは、何だか鹿島村が低當になるような或いは踏み台になるような氣持がする

と述懐、茲において

木田委員 両人のいままでの質問をじつと聞いていると質問内容の基盤となつている精神の底流に、合併によつて純農村としての性格が破壊されるのではないか、というような危惧の念が動いているように感じられるが、都市合併によつて農村の性格が失われるという心配は杞憂である、市制の中にあつても獨自の立場で純農村の在り方は毫も職ることなく堅持されるむしろ市制施行に基ずく農村面の施策強化は農業經營上に飛躍的な利便を齎らし、農村としての個有の性格に絶對にヒビを入れるものでないと斷言出來る、都市に合併されたからといつて、主体が町で農村方面が閑却されるというようなことが勿論あり得ない事は舊玉川の合併後の現状を一目しただけで十分だ 若し以上のような一連の不安が心の底にあるとしたらこの際小名濱の合併精神を再認識することによつて速刻排除して貰いたい

と力説して老婆心に訴えたが、箱崎氏らは「何も自分らは反小名浜の精神で質問しているわけではない」とピント放れの解答で小名浜側いささか拍子放ずれの形、この時鹿島村元助役山口氏は

私は小名浜の現況或いは将來を自分でも研究し、又今日小名浜側諸氏の各種の説明を承りまして自發的にそして全幅的に小名濱合併に大賛成の意を表します

と一席、満場に朗笑起る

（續）

各種印刷ノ
御用命ハ是非
事務用印刷物
チラシ・機關紙
長瀬印刷所
小名浜町 電219

輕ク強イ
自轉車はダグラス
吉田屋商會
小名濱町 電話89番

箱材

	ミリン干箱	サンマ箱	生箱
長	1、5尺	2、0尺	2、0尺
巾	1、0尺	1、0尺	1、25尺
高	0、25尺	0、3尺	0、4尺

全部カンソ材、結束針金

一、ベニヤ各種
一、一般建築材 栗土台、雑作、銘木類 木摺瓦棧
一、建具材及家具材類 杉 樅 栗、檜 小割及板割
一、箱材及樋樽材 三分・三、五分・四分耳付板
一、長尺材 長柄・平角・二階柱

百聞一見にしかり一度御來店下さい
材木ならなんでも有ります
荷馬車壹臺となれば運賃サービズ

石城郡小名浜町新川一四
井澤林産企業組合販賣所
電話一〇四番

パーマと美顔は……
小名浜町 本田美容室へ

小名濱會場『ソフトボール』

本命は安積女高か

一般の部に日本水素出場

參加チームは女子高校二〇チームに女子一般二チームの予定で相當の盛會を予想されている、特に初日の二十三日午前八時三〇分より一中グラウンドに於いて華やかな入場式が行われ、次いで一小グラウンドと併せてA、B共に試合が開始される一中の第一戰は若女高に川俣高、一小は浜通りダークホース磐女高に前年度の覇者保原高の對戰により三日間に亘る大會の幕が切つておとされる先づ全般的に見て春夏の大会に優勝している安積女高が優勝候補の筆頭にあげられ、これを追つて郡山女高、会津の覇者である打擊に强い田島高がどれだけ喰い込むか興味のあるところ、それに加えて浜通りのホープとして斗志満々、元氣一杯のプレーをなす磐女高、平商高が地元だけにハンデーキャップがある、また縣北の雄として傳統の試合巧者として定評のある福島女高のねばりが又一層予想を困難ならしめている

個人的には何と云つても優勝候補である安積女高の鎌出、草刈のバッテリーであろう、更に加えて男子顔負けのけんらんたる守備を誇る安積の大木三壘手が光つて居る、郡女の深澤三壘手も又良く、速球の棚倉菊地投手縣下随一の好守を誇る天野外野手、好守好投の磐女高石橋姉妹等は好プレーヤーとして知られている、また女子一般は福島女高先輩の橘クラブに地元日本水素の一戰であるが勤勞者を対象として居るため特に二十四日の日曜日に正午より一中グラウンドに於いて行われるこの一戰は試合なれしている橘クラブに榮冠が輝きそうであるが日本水素も又連日暑さを忘れての猛練習に技術も向上し相當の腕利を發揮するものと思われる

各校の全選手は女子らしい態度の中に若さと熱に溢れた元氣一杯のプレーを繰りひろげようと炎天下の母校グランドに猛練習を續けておりその試合振りには大いに期待出來るものがある

特に小名浜町事務局では出場選手全部が女子であり、當町ファン諸氏もとのプレーを優しいスポーツ愛好者の目で應援して頂きたいと要望している尚この大会を契機として小名浜の一般及び高校チームの結成と中学校チームの一大飛躍を期待したい

北洋漁業の打合會（平）

縣北洋漁業協同組合では二十一日午後三時より平市縣水產事務所会議室に於いて北洋漁業船團の參加者に對する第二回精算金分配などについて協議を行い次いで近く開催される北洋漁業船團本部及び母船側との折衝に關しての打合せを行つたなお小名浜漁業協同組合よりは水野理事、小野田主事が出席した

植田の受入萬全

縣体サッカー會場

第五回縣總合体育大会は明二十三日より平市を中心とした一市四町一村に於いて華々しく開始されるが開催各地ではその受入態制に万全を期している

サッカーの會場植田町では渡邊町長を会長に實行委員会を結成し町を擧げて歡迎の準備につとめている、植田小學校グランド補修も連日の炎天下に各町内ごとに交代にて奉仕作業で完了した、また出場選手三百名及び觀覽客の宿舎については植田町旅館組合の志富川、美登利、山田屋本別館などテンテコ舞いで準備をなし、町では植田駅前に大アーチを建て、商店街は三輪を画いた提灯をさげ各學校は三輪旗をかゝげて歡迎するなど縣体氣分でみなぎつている

各種印刷の御注文は長瀬

白鳥の家出娘發見さる

磐崎村大字白鳥芳賀新造さん二女ヨシミ（二六）さんは去る六日午後二時ころ家を出たまゝ歸宅せず行方不明を傳えられていたが、去る十八日午前十一時ころ全村藤原字大石の矢内彦次郎さんが全字地内の山の下刈りを行つていたところ、草むらの中に若い女が虫の息になつて倒れているのを發見これは芳賀さんの娘に違いないと直ちに連絡したため芳賀さんが連れ戻つて湯本町織内醫師の手當を受けているが未だ意識ははつきりしないようである

なおヨシミさんは磐崎小学校を優等の成績で卒業その後女子青年会にあつても摸範とされていたが二十才頃より天理教を信心し、最近では人に逢うのもいとうようになり精神に異狀をきたしての家出ではないかとみられている

冷菓界に新製品

熊出の「アイスロール」

二十日の最高氣温は三十一度を突破して本年度暑熱の最高記録を作り脫衣場やキャンデー業者をニンマリほくそ笑ましている時、熊出屋菓子店ほか小名浜の三アイスキャンデー業者は氷菓の需要はマダ〳〵とばかりアイスロールと稱するニュールツク氷菓を創製一齊に賣出して好評を拍し第一日は各店とも忽ち賣切れの狀態で驚喜の眼をパチクリ、新型氷菓として發賣と共は飛ぶような賣ゆきを見せている當のアイスロールなるものは、チョコレートに包まれた名稱通りのロールで結晶が柔らかくて歯當りが爽やかなのと上質のチョコレートが香氣を放ち大いに人氣を呼んでいる

豊間で保健婦の研究會

平保健所では本二十二日午前十時三十分より豊間町沼の内永山氏別邸に於いて保健婦研究会を開く出席は石城郡より三十余名の見込みで講師は平保健所柴田技師である、なお会終了後座談會を行う

予定

天氣豫報 22

【本日】南寄りの風日中は蒸暑く良い天氣ですが夕刻近くには雲が擴がり山沿地方では夕立のある處もありましょう【海上】日中は南寄りの風によつて多少波立つ事もありますが大体穩かな日が續きます

パーマと美顔は…
小名浜 本田美容室

魚菜市況 21

【小名濱中央青果市場】卵一〇〜一一、五〇胡瓜三〜一三大根三〜二六丸大根六〜三〇双豆五〇〜八六人參一二六〜一四〇馬鈴薯三五〜四〇とまと二〇〜一〇五唐君二〜五牛蒡七〇〜一〇〇葱二〇〜五〇西瓜二六〜三三玉葱四〇〜六五玉菜一〇〇さつま四七〜一一五南瓜一七〜二〇根生姜四〇〇葉生姜一〇〇〜一四〇ほうれん草（一把）八瓜一〇〜一八

【小名浜魚市場】かつお二五五〜二七〇

—郷土の新聞— 磐城日日

童話 梵天國 ⑮

佐藤春美

高秋精玄

（一五）

羅刹國とけいしん國とのへだたりは五百里ほどありました。羅刹國では太皷を次から次えと四五百打ち續けましたのでけいしん國まで聞えました。はくもん王はこの音を聞いて

「羅刹國に何事か起きたのであろう。合圖の太皷が鳴つている。」

と言つて、三千里をかける車に乘つて飛ばせましたので、それこそ目ばたきする内に羅刹國に飛びつきました。

夜叉女は待つていましたとばかりに走り出して行つてありのまゝのことを申し上げました。はくもん王は

「安心の出來ないものだ。こゝに居た修行者は日本國の中納言であつたのだな、しかしながらむとうは三千里を走る車である。追いつくことはお茶の子さいさいだ。さあみんなついて來い。」

といつて怒りつけました。

人が腹を立てることをはくもん王のようであると申しますが、本当に髪はすつかり逆か立つて天に向い、眼はぎら〳〵輝やき、歯がみして立ち上つたと思う間もなく、姫君の車に追いつきそうになりました。

中納言はこれをごらんになつて

「あれほど申しましたのに、私の身はどうなつてもかまいません。命を露ほどにも惜しいとは思いませんが、貴方につらい目をお見せしなければならないことが本當に悲しい事なのです。」

とおつしゃいますと、姫君は

「今となつては何んと言つても間に合わないでしよう。夫婦の固い約束を交じた私達でありますもの、浪の底深く飛び込んであの世へ行くのも御一緒にと思います。」

とおつしゃいました。

こうしている時に「前に御所に呼び寄せて舞をまわせた迦陵頻と孔雀とが二羽とんで來て、迦陵頻がつゝと近寄つて來てはくもん王の車を後へ後へと蹴とばします。孔雀は中納言の車につゝと近寄つて來て、姫君の車を先へ先へと蹴やります。

そのうちにこの二羽の鳥は一緒になつて、はくもん王の車をあちらこちらと蹴つているうちに、とう〳〵奈落の底まで蹴おとしてしまいました。はくもん王は大空から眞さかさまに地獄の底へと落ちて行きました。

二羽の鳥は安心したように、いずこともなく飛び去りました。中納言と姫君を乘せた車は日本の國を目ざしてどんどん飛んで行きます。

中納言と姫君とを乘せた車のついた所は日本のお國の花の都の眞中、五條の橋でありました。

お二人がそれから後、御仕合せにお暮しなされたことはいうまでもありません。（完）

暑中御見舞申上げます

石城地方町村會
会長 松本久吉
副会長 蛭田三郎
青木半三郎
事務局長 橋本勳

泉村 三瓶季三郎
渡邊村 高本信定
植田町 渡邊國之助
山田村 蛭田三助
錦町 高木武一郎
勿來町 青天目信次郎
上遠野村 荒川久馬
入遠野村 平子太門
川部村 鈴木長治
田人村 逸見萬吉
夏井村 青木半次郎
高久村 鈴木正一
豊間町 四家健雄
江名町 中田佑一郎
鹿島村 八代義定
小名浜町 水野政次郎
磐崎村 太田原憲太郎
湯本町 松本久吉
内郷町 沼田一夫
好間村 鈴木榮一
赤井村 鈴木隆衛
永戸箕輪組合村 大和田嘉衛
澤渡三阪組合村 佐藤濟司
草野村 坂本惣次郎
大浦村 阿部崇順
四倉町 花澤乙丸
大野村 西山東一
上小川下小川組合村 草野寅伊
川前村 新妻長太

平市金融團
勸業銀行平支店
東邦銀行平支店
平信用金庫
大東相互銀行平支店
福島相互銀行平支店
富士銀行平支店
七十七銀行平支店
常陽銀行平支店

泉村農業委員會
会長 鈴木孝章
会長代理 佐藤禮兵衛
委員 吉田善八
大平忠治
三戸亦兵衛
猪狩春伊
佐久間秋夫
江尻利雄
吉田倉雄
伊藤仲次郎
江尻儀平
大平覺右ヱ門
上遠野武
佐藤德次
瀧内進
吉田勝見

泉村議會
議長 江尻[illegible]鄉
副議長 小林重三
議員 吉田勝記
阿部東鄉
齋藤欽一郎
大津和水
佐藤禮兵衛
佐藤國松
吉田泉彌
上遠野英夫
吉田倉雄
佐藤賢一
藤井慶二
吉田勝見
江尻由
笹川伊佐夫
小林七郎
水野利一
吉田祕忠
渡邊好實
瀧内進
鈴木長次郎

江名町漁業協同組合
組合長 熊川喜一郎

品川白煉瓦株式会社
湯本工場
湯本町 電話二番